

## 19日 土曜

### 創世記



49:1 ヤコブは息子たちを呼び寄せて言った。「集まりなさい。私は、終わりの日におまえたちに起こることを告げよう。

49:2 ヤコブの子どもたちよ、集まって聞け。おまえたちの父イスラエルに聞け。

49:3 ルベンよ、おまえはわが長子。わが力、わが活力の初穂。威厳と力強さでまさる者。

49:4 だが、おまえは水のように奔放で、おまえはほかの者にまさることはない。おまえは父の床に上り、そのとき、それを汚した。——彼は私の寝床に上ったのだ。

49:5 シメオンとレビとは兄弟、彼らの剣は暴虐の武器。

49:6 わがたましいよ、彼らの密議に加わるな。わが栄光よ、彼らの集いに連なるな。彼らは怒りに任せて人を殺し、思いのままに牛の足の筋を切った。

49:7 のろわれよ、彼らの激しい怒り、彼らの凄まじい憤りは。私はヤコブの中で彼らを引き裂き、イスラエルの中に散らそう。

終わりの日とは、終末というよりも後の時代という意味です。ルベンの子孫であるルベン族は、イスラエルに与えられた約束の地カナンに入る際には、みなと共にヨルダン川を渡らずに、東側に定住しました。そしてその後には滅びてしまったものと思われまます。またルベン族からは士師、王、預言者などは生まれませんでした。

そのような呪いは、ルベンが父のそばめと寝て寝床を汚したことに起因しています。それについてヤコブは告発しています。

先祖の罪の性質はその子孫にまで影響することを考える必要があります。水のように捉えどころのない奔放さは、後のルベン族の自分勝手な定住にも関係しているのかもしれませんが。

またこれは神様の一方的なご計画とすることもできます。後にルベン族を減少させた神様ではありますが、それには深い摂理があったと考えられます。ただ、それでも不公平だとも感じるかも知れません。しかし私たち人間には、ルベンのような罪があるので、それを思えば神様が不当だと非難することはできないのです。

ヤコブの呪いは、人間の罪ゆえの結果と取ることもできますし、また神様のご計画とも取ることもできます。その両方が正しいのではないのでしょうか。

シメオンとレビもまた、妹ビルハの復讐のために多くの人を殺した、その罪を訴えられ、また呪われています。シメオン族もまた衰退し、ユダ族に吸収されてしまったようです。

私たちは生まれつきのままでは、このルベンなどのように、罪ゆえに呪われたものです。しかし十字架のイエス様とともに死に、またともに生きることによって新しくされたのです。今は呪いの中にはいなことを感謝しましょう。そして、新しい生き方、すなわち罪によってではなく、御心によって生きましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

